

2023年8月4日
一般社団法人日本船主協会

海運の重要性を学校教育の場で
～熊本市内の小学校教員を対象とした海事講座・海事施設見学会を開催～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し、海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しています。

この度、九州運輸局熊本支局および九州海事広報協会等と協力し、8月1日(火)に熊本市小学校社会科研究会の教員21名を対象とした海事産業見学会を実施しましたので、その模様をお知らせします。



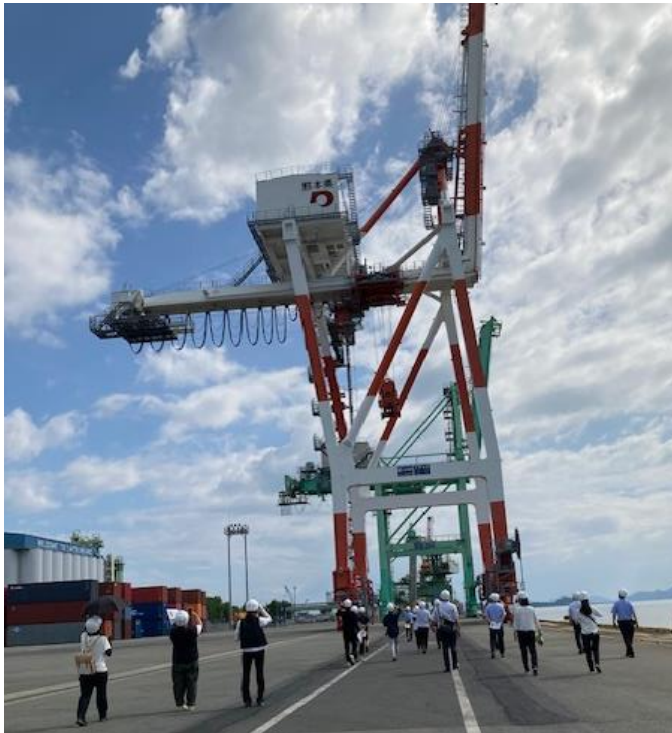
はじめに、日本製紙八代工場を訪問し、身近な製品と海運業の関わりについて、海外からチップ専用船で運ばれてきた木材チップや国内回収の古紙が紙製品となる過程について説明を受けるとともに、同工場の設備を見学しました。

その後、八代港に移動し、八代海上保安署の協力のもと巡視船「なつかぜ」に乗船し、海上から八代港を見学しながら、同港の役割等について説明を受けました。



下船後は、当協会から八代港の特徴や日本の貿易量の99%以上を海運が担っていること、日々の暮らしに海運や港湾といった海事産業が密接に関わっていること等を説明しました。

また、九州海事広報協会からは、海事産業の認知・理解向上に向けた活動について説明がありました。



最後に、八代コンテナターミナルを見学しました。まず、同ターミナルの担当者より、ターミナルの概要（荷役機器や保税倉庫等の施設や防災対策、寄港サービス等）について動画も交えて説明があり、その後、ターミナル内を徒歩で見学しました。巨大なガントリークレーンを間近で見学したほか、炎天下でマイナス 30℃に設定されたリーファーコンテナの内部を見学し、内部温度の保持力を体感しました。

教員からは「今回の見学会で海運に関する理解がさらに深まった」「授業作りに早速活かしていきたい」といった感想が寄せられました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運をはじめとする海事産業がより教育に取り入れられるよう、各種活動に取り組んでまいります。

以上